

准校長 荒木 聖

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「心理的安全性」をキーワードに、「安心して相談できる関係性」や「積極的な挑戦を後押しする環境」を構築し、「やってみよう！」「できた！」を増やす、多様性を認めて相互に支え合うことができる前向きな学校をめざして、次の取り組みを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

キャッチフレーズ：「めざす子ども像の実現に向け、根拠に基づくユーモアのあるユニークな取り組みに挑戦！」

- (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する

ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う

イ 自立活動を推進する

ウ 効果的な指導方法を検討する

エ シラバス活用を促進する
- (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる

ア コース制での学習の充実を図る

イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る
- (3) 時代にマッチした教育理論を構築する

ア 効果的な指導支援体制を研究・推進する

イ カリキュラム・マネジメントを充実させる

ウ ICT を活用した取り組みを推進する

エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する

オ 人権感覚を育む

カ いじめの未然防止に努める

キ 防災・防犯に努める
- (4) 次世代教員を育成する

ア 人権感覚を高める

イ 他学部との取り組みを知る機会を作る

ウ アレルギー対応の強化を図る

2 保護者・地域・関係機関との連携

キャッチフレーズ：「認め合い とともに子どもを 育てよう！」

- (1) 保護者との連携を深める

ア 保護者が進路情報を取得する機会を充実させる。

イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る

ウ 自主単独通学により社会性を育む
- (2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

ア 学校間交流を実施する

イ ボランティア募集活動の推進する
- (3) わかりやすい最新の情報発信を行う

ア デジタル化を推進する

イ 興味がわく情報発信を行う

3 働き方改革

キャッチフレーズ：「何を言っても大丈夫 困ったときはお互い様 みんなが安心 良い職場！」

- (1) 同僚性の高い職場づくりを行う

ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる

イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う
- (2) 教職員が働きやすい環境整備

ア 教材バンクの活用を促進する

イ グラウンドを使いやすくする

ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する

エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す

オ 写真撮影・販売等の業務を削減する

カ ダイアルインを導入し、活用を進める

キ ICT を活用して業務の効率化を図る

ク 会議の円滑化・充実を図る
- (3) 業務推進体制を整理する

ア 校務分掌体制を整理する

イ 情報共有体制の強化を図る

ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る

4 地域支援

キャッチフレーズ：「未来をつなぐ次世代のLS 育成 ～ 学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！ ～」

- (1) 地域との連携強化を図る

ア 校内の支援コーディネーターの育成を図る

イ 校外の支援コーディネーターの育成を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R6 年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症・パニック・トラウマの特性に応じた指導支援を含む) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜行動支援 PT＞	(1) ア <u>学びを実践へ！</u> <u>広がるコミュニケーションの輪</u> ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める ・学んだ手続きを効果的に共有し、他の教職員と連携して、共通の実践ができる体制を構築する イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する ウ <u>学ばせ方改革！</u> <u>授業力パワーアップ！ハイパー！</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する ・授業の初めに、めあてを分かりやすく伝え、めあてに沿った振り返りを行う エ <u>「シラバス」×「教科書（☆本）」</u> <u>＝「魅力ある授業づくりの実現」</u> ・シラバス・教科書（☆本）の活用を通して魅力ある授業づくりを推進する	(1) ア ・学んだ教員の報告会実施 年1回 ・今までのワークショップ受講者全員による周囲への効果的な手続き共有 自クラス担任数以上 イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察 ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。 ・研究授業の研究協議でめあてに関する協議を行う。 エ ・シラバス・教科書の活用状況確認 年2回以上	
	イ 自立活動を推進する ＜自立活動主任＞ ウ 効果的な指導方法を検討する ＜担当首席・管理職・高等部＞	イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する ウ <u>学ばせ方改革！</u> <u>授業力パワーアップ！ハイパー！</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する ・授業の初めに、めあてを分かりやすく伝え、めあてに沿った振り返りを行う エ <u>「シラバス」×「教科書（☆本）」</u> <u>＝「魅力ある授業づくりの実現」</u> ・シラバス・教科書（☆本）の活用を通して魅力ある授業づくりを推進する	イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察 ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。 ・研究授業の研究協議でめあてに関する協議を行う。 エ ・シラバス・教科書の活用状況確認 年2回以上	
	エ シラバス活用を促進する ＜教務部＞	エ <u>「シラバス」×「教科書（☆本）」</u> <u>＝「魅力ある授業づくりの実現」</u> ・シラバス・教科書（☆本）の活用を通して魅力ある授業づくりを推進する	エ ・シラバス・教科書の活用状況確認 年2回以上	
	(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	(2) ア <u>小さなスキルアップの積み重ね</u> <u>～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分～</u> ・製品づくりを通してコースごとに必要な働く力を高めるとともに、販売を通して働く喜びや達成感の涵養、コミュニケーション力の体得を図る。 イ <u>HOP STEP JOB！</u> <u>～ここから、始まる～</u> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習（2回）を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。 ・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。	(2) ア ・学校教育の自己診断の保護者評価 「進路や職業」87%以上[85%] ア ・高等部校外の方々を招いた職業バザールウィーク 年1回 イ ・職場見学・体験を1年生で年3回、2年生で年1回以上 ・外部講師による授業を年1回以上 ・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上 ・高等部3年生、希望する進路の実現 100%	
	イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	イ <u>HOP STEP JOB！</u> <u>～ここから、始まる～</u> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習（2回）を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。 ・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。	イ ・職場見学・体験を1年生で年3回、2年生で年1回以上 ・外部講師による授業を年1回以上 ・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上 ・高等部3年生、希望する進路の実現 100%	
	(3) 時代にマッチした教育理論を構築する ア 効果的な指導支援を研究・推進する ＜全校・行動支援 PT・支援研究部 ・管理職＞	(3) ア <u>一人ひとりの可能性を輝かせる</u> <u>ポジティブな学校！</u> ・望ましい行動に向けた支援について学校規模で研修・実践に取り組む。 <u>当たり前じゃない！「当たり前」</u> ・児童生徒が「当たり前」にできている適正行動に着目して言語化することで、行動の維持向上を図り、消失を防ぐ <u>一人ひとりに合った支援で</u> <u>大人も子どももみんな笑顔に！</u> ・外部の専門家を招聘し、夏季休業中の効果的な研修の実施により専門性の向上を図る イ <u>続・続みんなで作る「カリキュラム</u> <u>・マネジメント」～ 達成の3年目！ ～</u> ・カリマネにより、学部間、分掌・PTの連携・協力を進め、より良い学校づくりを行う ウ <u>ICT 活用力で変わる！教育の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象とした ICT 活用能力向上のための研修を実施し、全体の底上げを図る <u>あるあるTV！みるみるネット！</u> ・教室モニター設置率を改善し、いつでも ICT を活用した授業展開ができる環境改善を図る <u>足元から広がる無限の可能性！</u> <u>未来を彩る学びのフロア</u> ・床面プロジェクションマッピング装置を設置し、床面に行動の手がかりを投影し、教育活動の支援を行う	(3) ア ・SWPBS（スクールワイドポジティブ行動支援）学校規模研修実施 ・アンケート等の実施により、各部にフィットした具体的指標を検討して実践する ・SWPBS 実践校見学 ・学期末毎に「適正行動への着目」に関するアンケート 年3回 ・夏季研修のアンケート結果考察 イ ・研修の実施 年1回以上 ・分掌、PT 間の定期的な情報交換 ・これらを含むカリマネ通信の発行 学期1回以上 ウ ・研修実施後のアンケート結果考察 ・校内モニター設置率8%増 ・床面プロジェクションマッピング装置（単焦点プロジェクター）の設置 エ ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の5%） ・あいさつ運動 週1回以上 ・50周年記念ダンス 学期1回以上 ・記念ソングのバス降車合図として活用	
	イ カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜行動支援 PT＞	イ <u>続・続みんなで作る「カリキュラム</u> <u>・マネジメント」～ 達成の3年目！ ～</u> ・カリマネにより、学部間、分掌・PTの連携・協力を進め、より良い学校づくりを行う	イ ・研修の実施 年1回以上 ・分掌、PT 間の定期的な情報交換 ・これらを含むカリマネ通信の発行 学期1回以上	
	ウ ICT を活用した取組みを推進する ＜DX 推進 PT・情報部＞	ウ <u>ICT 活用力で変わる！教育の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象とした ICT 活用能力向上のための研修を実施し、全体の底上げを図る <u>あるあるTV！みるみるネット！</u> ・教室モニター設置率を改善し、いつでも ICT を活用した授業展開ができる環境改善を図る <u>足元から広がる無限の可能性！</u> <u>未来を彩る学びのフロア</u> ・床面プロジェクションマッピング装置を設置し、床面に行動の手がかりを投影し、教育活動の支援を行う	ウ ・研修実施後のアンケート結果考察 ・校内モニター設置率8%増 ・床面プロジェクションマッピング装置（単焦点プロジェクター）の設置	
	エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する ＜教育環境部・高等部・生活指導部＞	エ <u>行きたい！読みたい！ライブラリー！</u> ・児童生徒が読みたい本を積極的に取り入れ、興味関心が広がる読書教育を推進する。 <u>笑顔と声で迎える朝 元気のスイッチ ON！</u> ・学部を越えて児童生徒会が一緒に朝のあいさつ運動を実施する <u>ねやがわレボリューション！</u> ・50周年の様々な記念事業で高まった機運を継続していく意識の構築を図る	エ ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の5%） ・あいさつ運動 週1回以上 ・50周年記念ダンス 学期1回以上 ・記念ソングのバス降車合図として活用	

	オ 人権感覚を育む ＜担当首席＞ カ いじめの未然防 止に努める ＜生活指導部・ 高等部＞ キ 防災・防犯に努め る＜担当首席 ・生活指導部＞ (4) 次世代教職員を 育成する ア 人権感覚を高め る ＜高等部・ 管理職＞ イ 他学部との取組み を知る機会を作る ＜担当首席＞ ウ アレルギー対応 の強化を図る ＜健康教育部＞	オ <u>あなたらしく 私たちらしく</u> ・人権をテーマにした教育を授業で実施する カ <u>みんなで守ろう、みんなの笑顔！</u> ・「いじめ対策委員会」を学期１回開催、いじ めに関わる事案等の確認を行い、未然防止に 努める ・いじめ事案が確認されたら即ち委員会を開 催し、組織としての対応を検討する ・『学校いじめ基本防止方針』を改訂、教職員・ 保護者へ効果的に周知する ・「部集会」で各学部生活指導部より、児童生 徒に向け、いじめ防止に関する講話の実施 キ <u>みんなで助かる防災計画！</u> ・児童生徒は元より、教職員も含め全員で助か る防災計画の確認を行う <u>みんなで守る安全な学校、</u> <u>ヒヤリハットが第一歩！</u> ・ヒヤリハット報告を通して教職員の安全意 識を向上させ、事故や災害の未然防止を図る ・学期初めにヒヤリハット報告の協力依頼を 職朝時に行う ・必要に応じて、ヒヤリハット情報を職朝で 共有する <u>一人ひとりのチェックで安心</u> <u>みんなの未来！</u> ・マニュアルや校内の実情に応じた訓練、双方 を実施する (4) ア <u>子どもの人権尊重！</u> <u>広げよう「前向き」「認める」言葉かけ！</u> ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、ポジティ ブな言葉かけで行動を促す イ <u>学校ぜ～んぶ、笑顔でつながろう！</u> <u>寝屋川ファミリー（教員版）</u> ・教職員の学部間交流を計画・実施する ウ <u>誰でもわかる！給食と食物アレルギー</u> ・年度当初のマニュアル説明、食物アレルギー に関する研修の実施、しおり・マニュアルの各 クラス配備により、絶対に食物アレルギー事 故を起こさない体制の構築を行う	オ ・人権学習 年１回 ・人権推進委員会開催 学期１回 ・学校教育自己診断の保護者評価 「いじめについて」65%以上[63%] キ ・防災計画の確認・修正の実施 ・ヒヤリハット報告提出数 R6年度比 80%増 ・防災訓練（必須訓練及び誤報に関する 訓練 各１回以上） ・防犯訓練（教員・児童生徒各１回） (4) ア ・准校長の授業観察、部主事等からの聞 き取りで確認 年１回以上 イ ・十分な準備のもと、他学部のミドルリ ーダー等が丸一日担任を入れ替わり、 児童生徒の指導支援を行う 年１回 ウ ・食物アレルギー研修実施 年１回以上 ・マニュアル活用状況アンケート実施	
2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携 を深める ア 保護者が進路情 報を取得する機会 を充実させる。 ＜進路指導・高等部 ＞ イ 保護者が悩みを 専門医に相談でき る機会を作る ＜保健室＞ ウ 自主単独通学に より社会性を育む ＜生活指導部＞ (2) 地域・関係機関 との交流・連携を推 進する ア 学校間交流を実 施する ＜高等部＞ イ ボランティア募 集活動の推進する ＜担当首席＞ (3) わかりやすい最 新の情報発信を行 う ア デジタル化を推 進する ＜担当首席＞ イ 興味がわく情報 発信を行う ＜担当首席＞	(1) ア <u>進路、もっと知りたいねん！</u> <u>～主体的に切り拓く進路～</u> ・本校の進路の流れや取り組みについて動画 配信し、保護者が進路について知り、進路選択 しやすくなるようにする。 ・２回目となる福祉事業所合同説明会をより 充実したものにする。 イ <u>相談室へいらっしやい！</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじ め、だれでも気軽に相談できる場を設定する ・できるだけ担任も同席し話を共有する ウ <u>はじめよう自主単を！</u> <u>身につけ伸ばそう社会性！</u> ・保護者と連携し、自主単独通学生徒を増やし 活動を通して社会自立に向けた力を育む (2) ア <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う イ・<u>地域力を結集して、</u> <u>子どもたちの未来を育もう！</u> ・スクールボランティア数を増やして、子ど もたちへの教育環境を充実させる ・ボランティア募集のチラシを学校 HP に掲 示すると共に、近隣大学へ配付を実施 (3) ア <u>デジタルの窓でつながる</u> <u>みんなの学びと笑顔！</u> ・児童生徒の取組みを、来校した保護者にわ かりやすく情報発信するためにサイネージを 設置する イ <u>「みんなの学校ブログ」</u> <u>～学校のワクワクをブログで発信！～</u> ・児童生徒が主体となって、寝屋川支援学校の 魅力を学校ブログで発信する	(1) ア ・動画の作成、配信 年１本以上 ・事業所、保護者の来場アンケートでの 満足度 80%以上 イ ・学期２回以上の実施 ・１回につき３件以上の相談 ウ ・自主単独通学生徒数 R6年度比 40%増 (2) ア ・学校間交流実施 年１回以上 イ ・スクールボランティア登録者数 R6年度比 80%増 (3) ア ・学校教育自己診断の保護者評価 「教育情報の提供」85%以上[81%] イ ・児童生徒からのブログ投稿 年間 50 件以上	

3 働き方改革	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる <管理職> イ なんでも相談できる雰囲気づくりを行う <管理職> (2) 教職員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を促進する <教務部> イ グラウンドを使いやすくする <健康教育部> ウ 分掌長・主事等の業務を軽減する <学年主任> エ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す <教育環境部 健康教育部> オ 写真撮影・販売等の業務を削減する <管理職> カ ダイアルインを導入し、活用を進める <管理職> キ ICTを活用して業務の効率化を図る <DX推進PT> ク 会議の円滑化・充実を図る <全校> (3) 業務推進体制を整理する ア 校務分掌を整理する <管理職> イ 情報共有体制の強化を図る <全校> ウ 新校務環境を活用した業務改善を図る <情報部>	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスをさらに向上させる イ <u>何を言っても大丈夫！困ったときはお互い様</u> ・教職員同士が気持ちよく業務を行えるよう、なんでも相談できる職員室の雰囲気づくりを行う (2) ア <u>知識の循環を進めよう！</u> <u>教材バンクで学びの連鎖</u> ・共有できる教材を増やし、効果的な教材研究の実施を推進する イ <u>整備で変わる！みんなのグラウンド</u> ・使用後や降雨後に点検・簡易整備を行うことで、使用したい時に使える環境を整備する ウ <u>分掌長さんそれやりますよ！アップデート</u> ・業務の平準化のため、アンケートを実施して分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る エ <u>管理上手で無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う <u>チェックでつなぐ安心安全！</u> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える <u>学校キレイ大作戦！</u> <u>整理整頓で清潔な教室を！</u> ・50周年記念事業で整備したHR教室・特別教室、廊下の掃除道具の状態を維持する <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する オ <u>プロにお任せ！思い出満載！</u> ・日常の風景や泊行事を含む行事の撮影及び、卒業アルバムの写真選定から作成までを業者に委託し、教員の業務を削減する カ <u>内線は過去！ダイアルインで未来！</u> ・ダイアルインを導入し、内線の負担を軽減する キ <u>ICT活用力で変わる！業務の新しいカタチ</u> ・全教職員を対象としたICT活用能力向上のための研修を実施し、業務の効率化を図る ク <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> <u>柔軟に問題解決！</u> ・提案に課題を述べるときは、併せて代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> <u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>分掌から飛び出し続けるPT！</u> ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する イ <u>飛び越えない「情報共有」！</u> ・業務に関する情報に洩れを生じさせないため、学級→学年主任→学部主事、各担当→係主任→分掌長、担当首席→教頭→校長・准校長と、順序だてた共有を図る ウ <u>進むシステム 減らそう業務</u> <u>チャンスの時間！</u> ・導入された新校務環境を活用し、個人や組織の生産性の向上を図るため、情報発信や業務の提案を行う	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクが全国平均より下回る〔100〕 イ ・学校教育自己診断教職員評価 「教職員での話し合い」82%〔79%〕 (2) ア ・教材バンクに格納された情報教材数 昨年度比 120% イ ・学期に1回のにがりまき・溝清掃実施 ・グラウンド使用後の簡易整備割合確認 ウ ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 エ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・年度初め、学期末に過不足の調整 年4回 ・掃除の時間及び参加人数の確認 オ ・写真販売システム、アルバム作成業者の選定、提携 カ ・ダイアルインシステムの導入 活用に関する状況を面談にて確認 キ ・研修実施後のアンケート結果考察 ク ・首席・分掌長等への面談時に確認 年1回以上 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」80%〔76%〕 (3) ア ・首席・分掌長等の面談時に確認 イ ・首席・部主事等の面談時に確認 ウ ・職員室以外でMS365を利用したことがある 100% ・新環境を利用した業務改善ニュースを年6回発行する	
4 地域支援	(1)地域との連携強化を図る ア 校内の支援コーディネーター育成 <支援部、LS> イ 校外の支援コーディネーター育成 <支援部、LS>	(1) ア <u>未来をつなぐ次世代のLS育成！</u> ・後進育成として、年に5回・5人以上、LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する イ <u>学校を巡り、子どもたち・先生方を笑顔に！</u> ・担当市を中心に教育委員会と一緒に教員研修や施設見学などを実施する。年4回以上	(1) ア ・同行回数 年5回5人以上 イ ・研修及び施設見学 年4回以上	

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、 児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、 以下の学校づくりを行う。 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校 3 教職員がいきいきと働く学校 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上 ＜学校教育自己診断の保護者評価「学校に対する意識」R8まで80%以上を維持（R4:77%、R5:82%、R6:77%）＞ キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」 (1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む） ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う イ 自立活動を推進する ウ 効果的な指導方法を検討する エ シラバスをブラッシュアップする (2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実を図る イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する (3) 時代にマッチした教育理論を構築する ア カリキュラム・マネジメントを充実させる イ 効果的な指導支援体制を研究・推進する ウ ICTを活用した取組みを推進する エ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する オ 人権感覚を育む カ いじめの未然防止に努める キ 防災・防犯に努める (4) 次世代教員を育成する ア 人権感覚を高める イ 他学部の実践を知る機会を作る
--

2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R8まで70%以上を維持（R4:78%、R5:64%、R6:81%）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

ア

キャリア教育プログラムの活用を推進する

イ

保護者が悩みを相談できる機会を作る

ウ

通学バスの位置情報を提供する

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

ア

学校間交流を推進する

イ

民間委託された給食室と連携を図る

(3) わかりやすい最新の情報発信・収集を行う

ア

デジタル化を推進する

3 働き方改革

＜教職員の心身の健康のため、「府立学校ストレスチェック総合健康リスク」について、全国平均ポイントを下げる＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

ア

ワーク・ライフ・バランスを向上させる

イ

定時退庁できる雰囲気づくりを行う

(2) 教職員が働きやすい環境整備

ア

教材バンクの活用を推進する

イ

分掌長・主事等の業務を軽減する

ウ

物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す

エ

個人情報処理業務を削減する

オ

会議の円滑化・充実を図る

(3) 業務推進体制を整理する

ア

首席を各PTの要として学校経営の推進を図る

イ

校務分掌体制を整理する

4 地域支援

＜地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施100%＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 地域との連携強化を図る

ア

校内外の支援コーディネーターの育成を図る

イ

高等学校への支援を進める

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1 結果概要 ＜保護者アンケート＞ ・回答率は、昨年度（51.3％）より、11.8％増。 昨年度から、フォーム作成ツールを用いてアンケートを実施したところ、回答率がかかなり下がったため、今年度は当初設定した回答期限を延長すると共に、リンクを掲載した紙媒体の案内を配付したことにより、回答率の向上につながったと考える ・各項目の肯定的評価は、昨年度より微減したものの、全体平均は昨年度（77.4％）より2％増 ＜教職員アンケート＞ ・回答率： 81.7％（令和5年度）→100％（令和6年度） 名簿を回覧して回答済みチェックを行ったことで、100％達成 ・ほとんどの項目で肯定的評価が増加。全体平均は昨年度（76％）より9.5％増加 2 結果詳細 ＜保護者アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ①「授業参観や学校行事で学校の様子を知ることができる」（90.7％） ②「教職員は日常の教育活動で子どもの人権を十分に尊重している」（87.6％） ③「学校の児童生徒指導の方針に共感できる」（86.2％） 【課題の見られる項目】 ④「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」（52.4％） ⑤「学校は子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」（68.4％） ＜教職員アンケート＞ 【特に高評価な項目】 ⑥「カウンセリングマインドを取り入れた生活指導」（91.7％） ⑦「進路選択に応じた指導」（92.3％） ⑧「人権尊重の姿勢に基づく指導」（88.8％） 【課題の見られる項目】 ⑨「教育活動全般の評価と次年度計画への反映」（69.2％） ⑩「保護者・地域への情報周知」（73.4％） 3 課題の改善及び相関を基にした考察 ④学校はいじめ対応についての理解 肯定的評価が52.4％と低く、「わからない」が43.6％と非常に高い割合を占める。教職員アンケートでは、いじめ対応への肯定的評価が76.9％と高く、対応体制が整っていると認識があるが、保護者との間に大きな認識のギャップが見られる。 いじめ事案が発生していない場合、保護者が学校の対応方針を把握しづらい可能性がある。本校ではいじめの未然防止を今年度の学校経営計画の重点目標に位置付け、「学校いじめ防止基本方針」の年度ごとの見直し、「いじめに関するアンケート」の毎学期実施など、学校組織として子どもたちが安心して学校に通えるよう、いじめへの対応を行っている。保護者の方に安心していただけるよう、今後も情報を発信していく。 ⑤進路や職業選択についての適切な指導 「子どもの将来の進路や職業について適切な指導や助言を行っている」の肯定的評価が68.4％と低めである。一方、教職員アンケートでは進路指導について肯定的評価 92.3％と高い結果を示しており、認識のギャップが見られる。 進路を具体的に考えていく高等部の保護者からの回答では肯定的評価が85.4％である。「わからない」の回答については、小学部 21.3％、中学部が 17.4％、高等部が 8.3％となっており、特に小学部段階で、進路や職業選択についての指導へのイメージがもちにくいことがわかる。 今年度、高等部との職業に関する授業交流（職業の授業見学、実習体験、授業交流）を小中学部で実施。中学部では校内実習体験を実施。小学部段階からの進路指導を進めているところである。今後も本校での進路にかかわる取り組みについて、保護者の方に情報発信を行っていく。 ◎教育活動評価と次年度への反映 教職員が評価結果を十分に把握できていない可能性がある。学校経営計画の評価について、評価内容とその反映計画を、教職員にさらにわかりやすく共有する必要がある。教職員が計画の成果を実感できるよう、振り返りの機会を増やし、小さな成果も共有すること全体で達成感を共有できる仕組みを構築していく。 ⑩保護者・地域への情報周知 保護者の回答では、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」項目で 82.7％と高評価となっているが、教職員の評価では少し低い 73.4％となっている。自由記述回答中に、「保護者の間でデジタルデバイスが感じられる時がある」という意見があった。本校では情報伝達についてデジタル化を進めているが、デジタル環境に関する不安や要望を聞き取り、必要に応じて対応策を講じていくことも求められる。 また、「保護者への情報伝達が遅いと感じる。」という意見が自由記述回答にあった。必要な情報について、タイムリーに伝えていけるよう、努めていきたい。	【第1回 7月4日】 ●50周年記念事業について ・学校ホームページにアクセスすると、記念ソングが流れるようになっている。50周年を盛り上げようしていることが感慨深い。 ・子どもたちの取り組みはキャリア発達の視点で素敵だと感じる。 教職員も楽しんでいる様子が分かり、同僚性やチームで取り組んでいく等、次につながる。ダンスを基軸として系統性をもって教員が話をする機会も増え、良いものだと思う。 ●教科書採択について ・☆本というものがあるということを初めて知った。地域の学校でも使ってみたいと感じる。 ・系統性を重んじていくということで、5月に全校教科会が開かれた。12年間の一貫教育をいかにすすめていくかということを考えていけるのは、支援学校の強みでもある。 子どもの実態に応じて支援内容や教材教具を工夫されると思うが、教科書でさらに系統性がある授業づくりをすすめていってもらえたら。 ●学校経営計画 ・学校経営計画は教員が読むのがしんどいという印象だった。意見を集めてキャッチフレーズを募集するのは、面白いと感じている。 ・中学部の職場体験は今後社会情勢も変わっていて選択肢も広がる中、どうなりたいかなどを考える機会を持ってないのかなと思う。一方で、職場体験実習は行っているのか？また、卒業生や実際のさまざまな仕事の話を聞く機会を持ちたい。 ・園でも働き方改革の観点から会議の持ち方や諸書類の書き方等を見直ししているが、成果につながるまで引き続き取り組む必要があると考えている。園での取組の参加にもさせて頂いているので、学校経営計画を元に今後も進めていってほしい。 ・アンケートのペーパーレス化については、保護者からの回答を一定数求めなければその有効性が高まらないので回答率を高めることが課題となる。 ・働き方改革では、本校でも取り組んでいるが、教員のよりよいものを求めたい気持ちが先行し道半ばである。 ・最近の傾向として地元の支援学級を選ぶ児童が年々増えている児童の課題も多様になってきているので教職員の専門性も求められている。支援学校の地域支援において、さらに相談ができる機会が増えるということなので、ありがたいと感じている。 【第2回 11月21日】 ●教科書採択について ・現在、小学部に在籍しているが、高等部になると、教科書が増える。勉強が増えることを実感した。 ・様々なプリントやデジタル機器の活用等で、更に工夫されている。3学期の開催時に教科書も含め、各学部の学習や活動の様子もまとめて聞かせてもらえたら。 ●校内見学 ・授業の見学は、参考になった。中学部、高等部での実習は興味深かった。廊下の清掃では、できる人ができることをされているのが印象的だった。委員として関わっているが、実習受け入れについて、希望がいれば案内いただけたら。 ・高2の校内実習の様子を見たが、子どもたちだけで言葉を掛け合い、確認しながら丁寧にしていた。いつもあんな様子でしておられるのかと思った。中学部の縦割り授業、社会、体育、特活の縦割りは科目が固定なのか。行ったことのない校舎にも行くことができて、良かった。 ・個別最適な学びが大切だと言われている中、児童生徒一人ひとりが大事にされていると感じて感動した。卒業生に会い、いきいきとしている姿を見て、元気に頑張っている様子が見られて嬉しく思った。 ・小学部では、丁寧に学習をされている。掲示も愛情がこもっており、学校全体が美術館のような素敵な空間になっている。中学部の「ありがとうの木」は、一人ひとりの心とからだ揺れ動く難しい時期に、褒めて励ましてまた頑張ろうという気持ちを育てていると感じる。高等部の校内実習は、レポートリーが増えていてと感心した。清掃も丁寧。進路に向けて頑張っていることを感じた。50周年の節目の年。更に発展していくよう願っている。 【第3回 2月13日】 ●学校教育自己診断について ・進路や職業選択項目に、保護者と教職員で乖離。 小、中の保護者にとっては想像がしにくいので、評価が低いと捉えるのは厳しいのでは。すぐに進路選択が迫る高等部の保護者から8割超えの評価をもらっていることはよいのでは。 ・小学部の保護者として、進路に関してはわからない。回答しやすい文言に学部ごとに変えてはどうか。 いじめに対しても以前から【わからない】の回答が多い。子供に聞いてもわからない。 ・自分で訴えることが難しい児童・生徒もいる。答えやすい質問内容、文言にしてほしいという要望。 ・自己診断の項目については、小の保護者については、進路についてわからないことが多い。情報公開をしていくことで、進路について学習していることがわかりやすい。 ・グーグルの利用等、工夫されているところは評価できる。教職員回答率 100 パーセントは素晴らしい。 ・学校教育診断は、よりよくしていくためのツール。内容が分かりやすく答えやすくするのは良い。限界があるとは思うが、工夫は必要。 ●学校経営計画について ・ストレスチェックや超勤状況もあって、働き方改革については、いい取り組みだと思う。教育の質とのバランスを自分自身が見直していかないといけない。 ・中学部の取り組みで外部講師として行っていた。例年通りの見直しという観点から今後取り組みを継続するにあたって、見直していきたい。 ・体を動かす大切さはわかる。教室が不足している現状。どう確保しているのか。 ・ボランティアはどのような動きをしているのか ・PECSの活用があるが、卒業後の進路先で使用されずコミュニケーションが適切にとれず子どもが困ることも。 ・学校経営計画がおもしろく、見やすく分かりやすい。教職員が作成に携わっていることから、同僚性の高さをうかがえる。 ・高等部ではキャリア教育について力を入れているのがわかる。小学部という土台も含めて、子供たちの自己実現ができるよう、学部連携して励んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症 [※] ・ [※] 外傷 [※] の特性に応じた指導支援を含む) ア 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜行動支援PT＞	(1) ア <u>コミュニケーションでみんな繋がろう！</u> ・コミュニケーション支援のワークショップで手法を学び、校内に広める。	(1) ア ・学んだ教員の報告会実施 年1回	・PECS ワークショップ開催(8月) 北摂杉の子会実践報告会(12月) 事業所見学会実施(R7年1月) PECS 実践報告会実施(3月) (○) ・全体研修で基礎的な内容、実践事例を研修内容として求める声が多く、夏季研修に反映した。(○) ・各学年で、定期的に活動内容の共有・改善の機会へとつなげる機運の高まりにつながった。(○)
	イ 自立活動を推進する ＜自立活動主任＞	イ <u>一人ひとりの良さを伸ばす自立活動！</u> ・全校・各学部で自立活動の研修・実践報告を実施する。	イ ・各学部研修のアンケート結果考察 ・夏季研修のアンケート結果考察	
	ウ 効果的な指導方法を検討する ＜高等部 首席＞	ウ <u>学ばせ方改革！授業力パワーアップ！</u> ・授業中の待ち時間を減らし、子ども一人ひとりの活動量を保障する。	ウ ・研究授業の研究協議で活動量が保障されていたかを協議する。 ・准校長の授業観察時に確認する。	・校内研究授業として、10 年目経験者研究授業を校内に周知、実施。研究協議を実施できなかったが、部研修として、高等部の教員全員で授業研究を行った。(○) ・研究授業や授業観察で活動量を意識している様子が窺えた(○)
	エ シラバスをブラッシュアップする ＜カリマネPT＞	エ <u>定期的に見なおしをかけよう！</u> ・教科ごとの繋がりを確認すると共に、系統立てた教科書採択を図る。	エ ・全校教科会の設定 年2回 ・システム運用状況の確認 年2回	・全校教科会5月、6月、9月の3回実施。教科書採択およびシラバスの内容見直しを図った。 ・教科書運用状況の確認(5月) ・シラバス運用状況の確認(6・9月) ・シラバス引継ぎ欄運用済(3学期)(○)
	(2) 卒業後を見据えた進路指導を充実させる ア コース制での学習の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	(2) ア <u>小さなスキルアップの積み重ね ～卒業後を見据えて、一回り成長していく自分～</u> ・製品づくりを通してコースごとに必要な働く力を高めるとともに、販売を通して働く喜びや達成感の涵養、コミュニケーション力の体得を図る。	(2) ・学校教育の自己診断の保護者評価「進路や職業」80%以上[71%] ア ・校外の方々を招いた職業バザールウィーク 年1回	・保護者評価 85%(○) ・保護者、事業所の方々を招く形で企画し、2月3日から7日で実施。
	イ 卒業後の社会参加と自立を見据えた実習及び進路の充実を図る ＜進路指導部 高等部＞	イ <u>HOP STEP JOB！ ～ここから、始まる～</u> ・産業現場との連携や外部講師の招へいによる実践的、専門的な学習を保障し、主体的な進路決定に必要な知識の獲得を図る。 ・2年時にコースに応じた実習先での体験実習(2回)を継続実施し、生徒の自己理解や主体的な進路決定に繋げる。 ・1人1人のニーズに応じた進路選択をサポートするために進路先開拓を進めるとともに、福祉事業所・企業・障がい福祉課・ハローワークなど関係機関との連携を強化する。	イ ・職場見学・体験実習を1年生で年3回、2年生で年1回以上 ・外部講師による授業を年1回以上 ・2年時にコース別での実習先で体験実習を2回以上 ・高等部3年生、希望する進路の実現100%	・職場見学：1年2回、2年1回実施済。1年は2月下旬に1回実施。 ・外部講師による授業を9月に1回(ソニー生命)、12月に2回目(司法書士)、3回目(障がい年金)1月に4回目(キャリアガイダンス)を実施済(○) ・体験実習：2年2回実施済。キャリアアップコースのみ3回目(企業実習)を2月に実施予定。(○) ・27人中27人実現。100%。(福祉事業所21名中21名、企業6名中6名)(○)
	ウ 卒業後の社会参加と自立を見据えた効果的な進路指導を推進する ＜進路指導部 高等部＞	ウ <u>つながる進路～学部間・関係機関連携～</u> ・職業の授業、取り組みを通した学部間の児童生徒の交流を実施し、生徒の自信・意欲を高める。 ・小・中学部の保護者の方への情報提供の機会を増やし、先を見据えた進路決定に繋げる。 ・卒業後の生徒の動向を把握し、進路先でのより良い社会参加と自立に繋げる。	ウ ・小学部、中学部との職業交流を実施年1回 ・各学部への進路ガイダンスを実施。年1回 ・事業所のパンフレット配付、進路だよりの発行等で情報提供。進路のてびきへ小中学部の進路の動きを追記載	・50周年記念事業「学校きれい大作戦」にて、小中学部との交流清掃を小中学部各学年1回計9回実施。 ・高等部園芸での授業交流を小学部2年、高等部2年で1回実施。生徒の深い学びに繋がった。(○) ・小6、中3、高1・2対象に実施済み。(○) ・事業所パンフレットは「地域情報」の印を配付済み。進路だより各学期に発行。進路のてびきへの追記載し全校対象にして配布。事業所からの

府立寝屋川支援学校

2 保護者・地域・関係機関との連携	(1) 保護者との連携を深める ア キャリア教育プログラムの活用を推進する ＜教務・進路指導・支援部・高等部＞	(1) ア <u>輝く未来はキャリアプロから！</u> ・キャリア教育プログラムを保護者とのコミュニケーションツールとして活用。 ・キャリア教育プログラムと授業実践の連携を深める。	(1) ア ・懇談時にキャリア教育プログラムの課題と進捗を確認。年2回 ・キャリア教育プログラムを意識した授業設定を総合的な探究の時間に実施する。	・前期末懇談にてキャリア教育プログラムを保護者に提示、課題と進捗の確認を行った。後期末も同様実施 ・キャリア教育プログラムの観点に即して生徒が自身の成果と課題について自己評価できる教材「キャリアチェックシート」を作成し、総合の授業にて活用。前期は実施済みさらに前期末で評価、目標設定に活用済み。後期末も同様実施 ・1学期は5・6・7月に計3回実施、2学期は9・10月に2回実施、11・12月にも1回ずつ実施 3学期は1・2月に計2回実施 1回につき2～3件の相談あり 保護者、(児童)生徒本人、担任からの相談あり。(○) ・登下校便で1日2回(1便運行がある場合は3回)活用することができた。位置情報が反映されない場合はバスコースへ連絡して対応することができた。(○)
	イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る ＜保健室＞	イ <u>相談室へいらっしゃい！</u> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。 ・できるだけ担任も同席し話を共有する。	イ ・学期2回以上の実施 ・1回につき2件以上の相談	
	ウ 通学バスの位置情報を提供する ＜生活指導部＞	ウ <u>安全安心の登下校！</u> <u>バス今どこ？バス今ここ！</u> ・バス会社と連携し、漏れのない位置情報を提供し、保護者のアプリ活用を促進させる。	ウ ・情報提供 バス運行日数×2回以上	・12月に、1年生は枚方なぎさ高等学校、2年生は西寝屋川高等学校、3年生は茨田高等学校と実施。(○) ・「食缶受け取り時の挨拶を行っている(小学部除く)」の回答は、1学期の31%から35.7%に上昇した。「下膳時に挨拶をしている」の回答は1学期の75.9%から83.9%に上昇した。「昨年度に比べて挨拶が増えたと感じる」の回答は69.6%と肯定的評価が目標に達した。(○)
	(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア 学校間交流を推進する ＜高等部＞	(2) ア <u>こんにちは！寝屋川支援学校です</u> ・各学部において、学校間交流を行う。	(2) ア ・学校間交流実施 年1回以上	
	イ 民間委託された給食室との連携を図る ＜健康教育部＞	イ <u>おいしい給食ありがとう！</u> <u>伝えます！感謝の気持ち</u> ・食缶受け取り・返却時に「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶を励行する。	イ ・年度末に教職員アンケートを実施「挨拶が増えた」肯定的評価67%	
3 働き方改革	(3) わかりやすい最新の情報発信を行う ア デジタル化を推進する ＜管理職・首席＞	(3) ア <u>ペーパーレス化で神(紙)ですか24！</u> ・メール配信システムやフォーム作成ツールの活用を進め、プリント配付やアンケート回収等についてデジタル化を推進する。	(3) ア ・全校配付プリントの配信率90% ・全校アンケートのデジタル化90%	・全校配布プリントの配信率90% 全校アンケートのデジタル化90% 学年配布プリントのデジタル化も進んでいる。(○)
	(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる ＜管理職＞	(1) ア <u>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事！</u> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。	(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを昨年度より下回る〔107〕	・ストレスチェック総合健康リスク100で昨年度を下回った。(○)
	イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う ＜管理職＞	イ <u>あっ！定時や！か～えろっと！</u> ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う。	イ ・時間外勤務実績昨年度比3%削減	・昨年度比95.7%の時間外勤務4.3%削減(○)
	(2) 教員が働きやすい環境整備 ア 教材バンクの活用を推進する ＜教務部＞	(2) ア <u>児童生徒・教員・皆のニーズを満たす IC活用！</u> ・ストックされた教材は活用し、新たに制作した教材は、教材バンクへ。	(2) ・学校教育の自己診断の教職員評価 ア ・教材バンクに格納された情報教材数昨年度比120%	・R5／87 R6／107 前年比123%(○)
	イ 分掌長・主事等の業務を軽減する ＜学年主任＞	イ <u>分掌長さんそれやりますよ</u> ・業務の平準化のため、分掌長・主事等の学年業務の軽減を図る。	イ ・首席・分掌長等への面談時に確認	・分掌業務を考慮して、学年業務の内容を決定した学年もあるが、調整等が難しかった学年もあった。(△)
	ウ 物品・環境の管理・整理・清掃方法を見直す ＜教育環境部 健康教育部＞	ウ <u>無駄なく長いお付き合い！</u> ・備品、消耗品、教材の管理を行う。	ウ ・職員用ロッカー・靴箱、教材倉庫の整理整頓の実施 ・50周年の取組みに関連し、清掃用具を中心とした新機購入・管理	・教職員ロッカーと靴箱は随時、教材倉庫は学期末毎に整理整頓を行った。(○) ・各教室、特別教室の清掃道具を集約し、使用不可は廃棄した。また、清掃道具数を学部ごとに定め、管理をしやすいようにした。今後は廊下にモップ、ほうき、ちりとりを配置予定。また清掃用具について倉庫の整理等を行った。(○)
		<u>チェックでつなぐ安心安全！</u> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。 <u>児童生徒・教員・環境にも優しいプール！</u> ・プール清掃・維持業務の負担を軽減するため洗浄促進剤を活用する。	・毎月の安全点検の実施と補修の依頼の実施 ・プール学習開始前に洗浄促進剤を投入	・毎月の安全点検と技能職員への補修の依頼を行った。(○) ・5月にマグクリーン SP をプールに投入した。その結果、プールに付着する苔が大幅に減少し、清掃が簡易になり、掃除の負担が減少した。(○)
	エ 個人情報処理業務を削減する ＜管理職＞	エ <u>溶解にして、他の仕事しよう改！</u> ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。	エ ・溶解処理の計画・実施	・1月末に全校周知し、個人情報関係書類を収集、その後の溶解処理に関して調整済み(○)

府立寝屋川支援学校

	オ 会議の円滑化・充実を図る ＜全校＞ (3) 業務推進体制を整理する ア 首席を学校経営の要として配置する ＜管理職＞ イ 校務分掌を整理する ＜管理職＞	オ <u>「こうあるべきだ！」はやめましょう！</u> <u>柔軟に問題解決！</u> ・提案を却下する場合、代替案を提示し、建設的で円滑な検討を行う。 <u>これ、なんのためにやってるの？</u> <u>「例年通り」はやめましょう！</u> ・行事等を検討する際、教育効果の向上を図ると共に働き方改革を進める。 (3) ア <u>強化します！首席間連携・教頭との連携</u> ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。 イ <u>分掌から飛び出すPT！</u> ・分掌とPTの担当をそれぞれ独立させ、業務の平準化・推進を促進する。	オ ・首席・分掌長等への面談時に確認 ・学校教育自己診断教職員評価 「行事の工夫・改善」80%以上〔76%〕 (3) ア ・総括首席を指名する ・首席を教頭補佐とする ・首席会を実施する ・PTの推進担当とする イ ・首席・分掌長等の面談時に確認	・面談時に「『反対のみ』の意見は少なくなってきたように感じるが、更なる浸透が必要」といった声があった（○） ・教職員評価 75.5%（△） ・評価指数はすべて達成。（○） ・「機動力高く動けているとは考えるが、推進するためにはもう少し人員の調整が必要」との声があった（○）
4 地域支援	(1) 地域との連携強化を図る ア 校内外の支援コーディネーターの育成 ＜支援部、LS＞ イ 高等学校への支援の実施 ＜支援部、LS＞	(1) ア <u>地域の学校と共に学ぼう「支援教育」！</u> ・各市町村と連携し、地域のコーディネーターの育成を図る。 ・年に5回以上LS以外の教員が巡回や研修講師に同行する。 イ <u>社会へ羽ばたく力を育もう！</u> ・支援教育サポート校と連携し、高等学校（含私学）等への相談支援を進める。	(1) ア ・すべての依頼について、各市の教育委員会と協同で実施 ・同行回数 年5回 イ ・高等学校（含私学）への相談支援・研修等を2回以上、実施	・大東市・寝屋川市各委員会と協同で実施。（○） ・同行者8名（首席含む）、計5回実施。（○） ・周知等行ったが、高、私学ともに依頼なし（△）